
私が生まれて

流衣

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

私が生まれて

【Nコード】

N7986C

【作者名】

流衣

【あらすじ】

作者のノンフィクション物語、名前は仮名です。私には障害があります。

神様・・・。

私は何か悪いことをしましたか？

ねえ神様・・・。

どうして障害を持たせてこの世に落としたの？

ー私が生まれてー

全ての始まりは私が生まれてから始まっていた。

発育が遅く、1才で歩けなくて2才ぐらいから歩き始めた。3才には言葉を喋れなくて話してもオウム返し。

例えば親が

「流衣いくつ？」

つと聞くと、

「流衣いくつ？」

つと返すのだ、何をするわけでもなくボーっとしていると思ったら、何か思いついたようにはしゃいだり走ったりする。

流石におかしいと思ったのか、私を連れて親は病院に行った。そこで医師に聞いた言葉は。

「自閉症ですね。」

自閉症？その言葉に疑問を持った、私も自分の病気に気づいたのはつい最近なのだ。

だって何も教えてくれなかったから・・・。

自閉症とは、発育障害でその名のとおり自閉的で周りとの交流が苦手、IQは極めて低く合併症としてLD障害がある。

LD障害とは、生まれつき脳に傷がつく学習障害の1つで、勉強面に苦労することが多くて重い人もいれば軽い人もいる、そこは個人差らしい。

私はLD障害もあった。

私は障害者・・・？健常者とは違うの？いや、そんなわけではない。そんな枠を作ってはいけないのだ、障害者と健常者、それだけの違いで同じ人間なのだから。だから皆と仲良くできる。

その時はそう思ってた。

思ってたんだ、無邪気に・・・。

中学生になって、友達もできた。毎日が楽しくてしょうがない、しかし、そんな中私を待っていたものは。

勉強という障害。

うまく理解できない私は、聞いてもよく分からない。先生に怒られてもどうして怒られているのが分からない。先生に怒られ

ねえどうして怒ってるの？怒られている理由を教えて？

そんなこと言えたらいいのに、でも言えない自分がいる。

「流衣、遊ぼう。」

友達の加絵が言う。

「うん。」

加絵は親友、毎日一緒にいて給食のときも話したりする。

でもそんな幸せな時間は続くはずがない、昼休みが終われば地獄が待っている。

先生の言っている言葉の意味が分からない、理解しようとするとう頭痛い。

授業終わらないかな、帰りたい。

帰っても何もないけど、勉強よりはマシだ。

「流衣！帰ろう。」

「帰ろうか。」

家に帰っても誰もいない、親は仕事、兄ちゃんは学校だからね。

「もう限界……。」

神様

もし願いが叶うなら私から障害を消してください。

私も普通の人にしてください。

「ただいま。」

親が帰ってきた。

「お母さん、もう学校行きたくないよ。」

「何言ってるの？学校行かないと勉強遅れるよ。」

「ついていけない。」

しかしそんなの分かってくれるはずもなく。

「明日も行きなさい。」

つとと言う、どうしてこんな目に遭うの？私は悪くないのに。

障害のせいだ。

全て障害が・・・邪魔してるんだよ、私は神様を心から恨んだ。

「絶対に行かない。」

「わがまま言わないの。」

「私は普通の人と違う、おかしいの。」

すると、親の口から衝撃的な事実を聞いた。

「あなたは自閉症なの、病気なの。」

病気・・・？この時に自閉症の存在を知ったのだ。
LD障害は知っていた、だけど自閉症は聞いてないよ。

「私は病気。」

「そうよ。」

言葉が出ない、何なの？その自閉症って、その場から走って逃げる、部屋に閉じこもって家庭の医学を開いた。

「発育障害？」

勉強面では苦勞すると書いてある、LDだけじゃなかったんだ、合併症としてLD障害・・・私が持っている障害と一緒にだ。

「流衣ご飯は？」

「いらない。」

「食べないと大きくならないよ。」

そう言われて、私は親のほうを向いて言った。

「体は大きくなっても勉強面では成長しない。」

「流衣・・・。」

「私なんか生まれてこなきゃよかった！」

普通の人として生きるのは難しいの？

やっぱり健常者と障害者の枠はあるんだね、悔しさからダンスを思いつき殴った。

すると、ダンスの引き出しが開いて、何かが落ちてきた。

「母子手帳？」

それは私の母子手帳と1冊の日記帳。

「あつ。」

母子手帳を開いた瞬間、何かが落ちた、青い生徒手帳ぐらいの大きさのメモ帳？違う、これは障害者手帳だ。
しかも3才から更新されてない・・・。

私は障害者じゃない？

もしかして大きな勘違いをした？

「日記帳だ。」

見るとこう書いてあった。

女の子が生まれた、名前は流衣、元気に育つといいな。

次はこう書いてある。

医師から自閉症と言われた、聞きなれない言葉に疑問を持つ。

ページをめくる手が止まらない、次々にめくって読んでいく。

自閉症の疑いが晴れた、この子は自閉症ではなかったんだ、LD障害は消えないけど自閉症は消えた。よかった・・・。

最後にはこう書いてあった。

ねえ流衣

私の子供に生まれてきてくれてありがとう。

一生あなたを守っていくからね。

だから

心配しないで、ちゃんと生きていい大人になってね。

・・・

日記は終わった、横に落ちている写真、私の七五三の時の写真だ、ちようど3才のときの写真・・・。

ひな祭りの音楽のオルゴールが鳴る、私はこれまでの全てを思い出した。

「あなたは自閉症なの。」

今日言われた親の言葉。

「自閉症ですね。」

医師から言われた言葉。

でも私は自閉症ではないんだ、障害というものとらわれていて考えすぎていたのかもしれない。

だから勉強もうまういかなかったんだ。

お母さん

私を生んでくれてありがとう。

自然と涙がこぼれ落ちる、ありがとう、たくさんのありがとうを言いたい。

まだ言い足りないよ？これからも言うからね。

そして神様

恨んでゴメンなさい

これからたくさん乗り越えなきゃいけない障害がたくさんあるから、負けないで頑張っていくよ。

この世に落としてくれてありがとう・・・。

・・・

今は普通の学生として学校に行っている、障害者と健常者なんて関係ない、お互いに助け合って生きていくから今の自分があるんだからね。

おわり。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7986c/>

私が生まれて

2011年1月29日14時27分発行